

平成30年度第1回古賀市地域活動サポートセンター運営委員会

会議録

1. 日時 平成30年8月2日(木) 14時～16時
2. 場所 地域活動サポートセンター「ゆい」
3. 出席者 村山安廣会長、佐々木洋子副会長
山田沙織委員、柴田芳孝委員、大庭久美子委員、納富育代委員
木村美幸委員、秋山実里委員、洪田昇委員
4. 欠席委員 柳武繁行委員
古賀市地域活動サポートセンター条例施行規則第16条第2項の規定により「運営委員会の会議は委員の過半数が出席しなければ開くことができない」となっている。委員定数10名の過半数の出席があり、会議は成立
5. 会議の内容
 - ①古賀市あいさつ
 - ②平成30年度運営委員会委嘱書交付
 - ③平成30年度委員紹介
 - ④職員紹介
 - ⑤会長・副会長の選出
 - ⑥議事
 - (1) 地域活動サポートセンターの役割について
 - (2) 平成29年度地域活動サポートセンター事業実績報告及び平成30年度の活動について
 - I 介護予防サポーター活動支援事業
 - II 介護予防運動サポーター事業
 - III 介護予防音楽サポーター事業
 - IV 地域活動サポートセンター人材育成事業
 - V 生活支援体制整備事業
 - VI その他の事業(地域リハビリテーション活動支援事業等)
 - (3) その他

(4) 全体の質問

6. 資料

- ・古賀市地域活動サポートセンター～平成29年度実績報告及び平成30年度計画～
- ・古賀市地域活動サポートセンターゆい 活動のしおり
- ・ゆいにおける介護予防サポーター教室の流れ（案）

7. 議事の概要

①地域活動サポートセンターの役割について

事務局より、「古賀市地域活動サポートセンター条例」、「ニーズと取り組みのマッチングについてのフロチャート」、「地域活動サポートセンターゆい活動のしおり」を使い説明

【質疑】

特になし

- #### ②平成29年度地域活動サポートセンター事業実績報告及び平成30年度の活動について
- 事務局より、各事業について「古賀市地域活動サポートセンター～平成29年度実績報告及び平成30年度計画」を使い内容の説明と報告

I 介護予防サポーター活動支援事業

【質疑】

(委員) 平成30年度の取り組みで、毎月第4木曜日にサポーター研修を行うとあるが、内容は毎回変わるのか。

(事務局) 内容は同じで30分程度だが、毎月サポーターになるための窓口を開いておくために新しく取り組んでいる。また、大きなサポーター研修会は登録会と一緒に年度末に行う予定にしている。

(委員) ちょいサポ研修を今年度行うようになり、研修後にサポーター登録をされる方はどれくらいいるのか。

(事務局) 中には研修のみ受けてサポーター登録をされない方もいる。ただ、サポーター登録をする際に最初に研修を受けておかないと後にトラブルが起りやすいため、必要な取り組みだと考えている。最初は声かけにより研修に人が集まっていたが、その後がなかなか広がらない。ちょいサポ研修の情報をどれだけ発信・PRするかがこれからの課題である。

II 介護予防運動サポーター事業

【質疑】

(委員) 課題の中で、運動サポーター養成講座の受講終了者が100名を超えているが、

実働している人数は少ないとある。その理由は把握できているか。

(事務局) まず1点目の理由として、自分自身のために養成講座を受講される方が多かったことが挙げられる。地域で体操する機会が少ないために、養成講座に運動をしにきたが、その方々が地域に出向いて何かをするのは難しい状況にある。2点目の理由としては、サポーターが活躍する場所の開発がうまくいってなかったことが挙げられる。今年度は、地域のニーズをとらえ、地域の受入をする側の啓発に努める。

(委員) ボールンピックの予選会が10月28日、決勝大会が11月10日とあるが、これはオープンにしてもよいか。

(事務局) 日程は決定している。ボールンピックの日程については、皆さんにもご迷惑をおかけした。この時期、午前中は地域行事が多いとの声があがったため、予選会は午後13時から30チーム、15時から30チーム、最大60チームを受け入れ、その中から上位15チームが本大会に進む流れである。

III 介護予防音楽サポーター事業

【質疑】

(委員) 家トレ BOOK は鍵盤ハーモニカ専用の楽譜なのか。Vol3の作成はいつ頃の予定か。また、作成の際に実際に活動しているサポーターの意見やリクエストは取り入れているのか。

(事務局) 家トレ BOOK は鍵盤ハーモニカ専用の楽譜で、Vol3については年度末に行われる生き生き音楽交流会にて披露予定となっている。

作成にあたっているのが全員指導者サポーターであり、支援サポーターの意見も取り入れて作成にあたっていただいている。また、多くの方に楽しんでいただくため、Vol3では脳トレや歌なども取り入れ、作成中である。

(委員) 家トレ BOOK は一般の方でも購入できるか。ゆい以外では販売しないのか。

(事務局) どなたでも購入可能である。ゆいにて入金処理が必要なため、販売はゆいのみで行っている。無料で配布するとチラシになってしまい、捨ててしまう方がいるので大切に使用していただくため有料にしている。

(委員) 運動と鍵盤ハーモニカがコラボして活動しているが、今後も運動と音楽のコラボを積極的に取り入れることは考えているか。運動はするが鍵盤ハーモニカはしないという方でも、実際に楽しく演奏をする姿に触れることで音楽に興味を持つことがあると思う。

(事務局) 今後は体力測定や運動、また地域リハビリテーションとのコラボも取り入れながら地域に提供していきたい。また、地域の個性を引き出し、必要な支援をする体制づくりも大切だと考えている。

現在、「地域おうえんハンドブック」を作成中である。「地域おうえんハンドブッ

ク」では、どんな支援を地域でもらえるのか内容を一覧にまとめ、地域のニーズとのマッチングをしていきたい。

IV地域活動サポートセンター人材育成事業

【質疑】

特になし

V生活支援体制整備事業

【質疑】

(委 員) 「地域生活資源の見える化マップ」の具体的な内容は決まっているのか。

(事務局) 古賀市が高齢者に推進している「人との交流、人材育成、地域のつながり、きっかけづくり」などの項目をフロチャートにして1枚のシートを作成した。そのシートを利用し、井戸端座談会やゆいで行われている地域カフェで意見を聞き、「市民の方々から集めた情報を市民の方々と共に作る」というスタイルで地域生活資源の見える化マップを作成する。

(委 員) 井戸端座談会はすべての校区で終了したのか。また、報告はあるのか。

(事務局) 井戸端座談会は8月1日ですべて終了した。井戸端座談会は社会福祉協議会の取組であり、地域福祉計画の中に取り入れる予定と聞いている。

VIその他の事業（高齢者ライフプランニング講座 地域リハビリテーション事業）

※30年度は地域活動サポートセンターの事業ではなくなったため、報告のみ

【質疑】

特になし

③その他

「ゆいにおける介護予防サポーター教室の流れ（案）」を使い来年度のゆいサポの方向性について説明。

【質疑】

特になし

運営委員全員一致で賛同を得る。

④全体の質問

(委 員) ゆいに常駐している職員は何人いるか。

(事務局) 職員は6人で、シフト制で勤務している。

(委 員) 宿泊は今でもあっているのか。

(事務局) 以前はショートステイを行っていた。市民のサポーターで対応するのが難しい状

況になったため、ショートステイは廃止した。ただ、地域の交流活動のためのグループリビングは残している。

- (委員) ゆいができた当初、DVの被害を受けている方が宿泊する施設という議会答弁もあった。代わりの宿泊場所は古賀市では用意しているのか。
- (事務局) 12日間被害者を引き受ける緊急一時保護という制度がある。施設に入り、安否も専門職が確認している。
- (委員) ヘルスステーションは予防健診課が担当で、介護予防目的で古賀市が推進している。地域見える化マップの作成には予防健診課、介護支援課、社協の横のつながりが必要だと思うが、それについてはどう考えているか。
- (事務局) 古賀市では、予防健診課、介護支援課、子育て支援課、生涯学習推進課、社協が連携して、5者会議を月に1回行っている。地域支え合い体制に関するネットワーク通信も次号はこどもの地域支援がテーマになっている。地域はひとつなのでみんなで繋がっていきこうという気運は、古賀市は他の自治体よりも高まっている。それぞれの課に専門のエリアがある。具体的な事業は専門職の職員が関わりながら、連携していくのが理想だと考える。
- (委員) 各事業の成果が、実際にどのように介護予防につながったと評価するか。
- (事務局) 介護保険計画は3年に一度策定する。その際、国で実態調査のアンケートを行っており、その結果に古賀市の特徴が出ている。生きがいづくり・健康づくりは平均より社会参画率が高く、引きこもりや転倒リスクは他の自治体よりも低い傾向にある。しかし、ボランティア・地域づくりはあまり好まない傾向にある。古賀市民が趣味活動だけでなく、ボランティアの気持ちを持ち、生きがいになるよう仕向けていくのがこれからの古賀市の課題だと考える。
- (委員) ゆいで食事を作らなくなっからの反応はどうか。パン屋やお弁当屋が売りに来るのか。
- (事務局) 作ってきた物を分け合って食べたり、連れ立って食事に行く様子が見られるようになり、新たなコミュニティが出来て話題も広がっている。そのため、ゆいにはパン屋や弁当屋はあえて呼ばずに今まで通りにしている。
- (委員) 古賀市がボランティア・地域づくりが課題であるということに関連して、5者会議の中に区長会や地域も担当しているコミュニティ推進課も入れていただきたい。せっかく地域に公民館もあるのでそこを生かしていければより良いのでは。
- (委員) 区長は業務量が多く、新しい事業に取り組む余裕がない。地域力・コミュニティを増すためにはもう一度考え直すべきではないか。
- (委員) 女性学級に関しても行政が用意しているツールが古い。年代ごとに個々で話すことはあるが、全体で話すことがない。それでは地域力は育たない。かなり昔の組織で動いているので、行政が主導して地域力を増すための組織作りをしていただきたい。

8. 次回開催について

年に3回程度を予定。次回は12月中に開催予定。